

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 12 月 22 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471503981		
法人名	有限会社 楓		
事業所名	グループホーム楓		
所在地	広島県福山市加茂町下加茂1251-7 (電話) 084-972-5050		
自己評価作成日	平成27年12月7日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3471503981-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成27年12月18日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

◆環境整備に重点をおいています。9時と13時にはスタッフが一齐に、草取り・窓ふき・車イス清掃などを、日によって実施しております。また、定時に換気を行っています。 ◆毎月、外部から講師を招いたり、また研修に参加したりといった形で、各利用者様の状態に合った移乗方法を学び、実施しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

敷地内には、テラスや庭があり、快適な住環境である。ホーム内は、毎日の清掃（2回）により清潔に保たれ、明るく温もりのある家庭的な雰囲気である。日頃から散歩や地元の行事などで地域住民との顔を合わす環境でもあり、地域住民から気にかけてくれる人が増えている。職員は、まず利用者（本人）が主役になれるように、個々の思いや要望を汲み取り、要望を叶える取り組みをされている。定期的な研修、利用者（本人）の能力を最大限活かせるように、楽技介護塾（安全で快適な介護方法）を習得するなど、日々サービスの質の向上に精進されている。なお利用者の状況に応じて勤務シフトを柔軟に変更したり、行事などがあれば、同グループの応援体制も整っている。運営の方針が明確に定められており、職員間の助け合いにより、働きやすい職場でもある。利用者の表情から、一人ひとりが心休まり快適に生活をされている様子が伺えた。
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「グループホーム楓は利用者様とご家族様そして地域の皆様との子々孫々のお付き合いを大切にします」という理念の下、その人らしい暮らしを目指しています。また、地域の皆様との交流を持つよう努めています。理念の掲示も実施しています。	地域状況や社会状況などにより、毎年度目標を設定している。毎年、同グループで方針の発表会を行い、事業所間の交流もされている。職員個人の目標が、設定され、月1回の振り返りを行い、ホーム長からのアドバイスを受けることにより、日々実践することが習慣化されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の勉強会にスタッフが講師として招かれました。また、地蔵盆や敬老会などの行事には入居者とともに参加しています。気候が良いときには、日常的に散歩をしています。	地域行事（地蔵盆や敬老会など）があれば参加し、日頃から散歩を通して、地域と利用者の交流が図られている。それにより、民生委員や地区の方が気にかけてくれている。同グループ協賛で市内の文化会館をお借りし、“楓コンサート”（クラシックなど）を行うこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方からの認知症の人の相談や困ったことなど、いつでもお受けしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ホーム内での行事や研修、事故やひやりはつとの報告を行い、地域の人・ご家族・出席して下さった皆様のご意見を参考にして、サービス向上に取り組んでいます。	事業所の取り組み状況を報告されている。利用者が参加することが難しい状況であるが、日々のケアの関わりから思いを汲み取り、反映されていた。年1回は家族会を行い、食事会（焼肉やお好み焼きなど）を行い、1年間の活動報告をされていた。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	困った時、わからない時などは、日常的に市の介護保険課や地域包括支援センターに相談しています。	利用者の状況により、市担当者とは随時連携を図っている。地域包括支援センターの職員とは、利用相談やサービス調整について、連携されている。また、月1回は、地域包括支援センター主催で近隣の事業所の集まりがあり、勉強会などを通して、他の事業所と顔を合やす機会がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	禁止事項について、繰り返しミーティングや研修を行い、ベッドのサイドレールの使用も必要最低限にとどめています。各ユニットの玄関の施錠は、ありません。	家族の了解を得て、転倒リスクや安全確認のため、足元専用のセンサーマットを設置している。新人研修では利用者の疑似体験（利用者の体験）を通して、勉強を行っている。研修などを適宜行い、職員は正しく理解し、言葉や態度に気を付けたケアを日々実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	マニュアルを作り、高齢者虐待についての研修を行い、意識を高め、小さな変化も報告するようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	資料の回覧や、必要に応じて関係者と協力し、活用できるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、ご家族様の思いや不安をお聞きし、質問や疑問にお答えし、安心してご利用頂けるようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	二ヶ月に一度の運営推進会議に、ご家族に出席を依頼し、ご意見を伺っています。また面会時にはお声がけを行い、馴染みの関係を作って、話がし易くなるよう心がけています。	家族の面会者が多く、顔を合わす機会が多い。スタッフルームの壁面に「ふせんボード」を設置し、職員が要望事項などを付箋に記入し、ボードに貼っていた。それらの意見や要望などについては、申し送り時やミーティングなどで情報共有され、早めに対応されている。毎月、担当職員からホームでの近況報告を送付している。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度の定例ミーティングの場で、意見を聞いています。 また、緊急ミーティングや緊急カンファレンスなどを必要に応じて開き、意見を聞く機会を設けています。	朝礼（9時）と昼礼（13時）やミーティングなど、常に管理者と職員との定期的な話し合いに加え、職員同士が話しやすい雰囲気である。不安や不満などあれば、その都度話し合いを行い、必要時は個別面談をされている。管理者には前向きに意見を受け止め、運営に活かしていく工夫がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	社内検定を行い、スキルアップと給与等の改定を行っています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内の伝達研修や勉強会を通じて、知識や技術の向上を図っています。また、社外の研修資料を回覧し、積極的に参加できるように働きかけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	事業所同士の連絡会に参加し、交流の場をもっています。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	アセスメントをしっかりと行い、本人様の気持ちを十分にくみ取るようにしています。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご本人様・ご家族様と、別々に話をお聞きする機会を持ち、時間をかけて聴き、受け止めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	社内のケアマネージャーを中心に、地域包括支援センターや居宅支援事業所のケアマネージャーの意見も伺い、対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	料理や掃除、花の水やりなどを職員と一緒にすることにより、日々の生活を共有しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人様の状態の変化に合わせ、ご家族も交え、支援の方法を話し合い、ご本人を支えるより良い方法を検討しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	会いたい人や、行ってみたい場所や、家に帰りたい等の言動があった時等、ご家族の協力もいただいて、可能な限りその思いに沿うようにしています。	喫茶店や美容院などへ行くこともあり、家族の協力を頂き、個人外出をされている。年賀状を送付したり、知人や友人の訪問もあり、家族や友人に電話もされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	毎月の行事やお出かけ、集団レクリエーションを実施するとともに、リビングでのおしゃべりの時間を積極的に作っていくことで、ご利用者同士が仲良くなる機会を作っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	本人・家族様から相談があった時には、常に対応できるようにしています。また、楓だよりや年に一度のお祭りの案内をお出ししています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活のリズムを本人様に決めていただいています。「ご利用者様はどのようにしたいと言われているか」を合い言葉に、常に本人様の意向を確認しています。	日々の関わりから、一人ひとりの要望を把握できるように努めている。これまでの生活習慣のこともあり、朝食のみ、その人の希望時間（5時～9時頃）に自由に食べられていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人様、ご家族様から今までの暮らしぶりやご様子を何度も聞き取り、経過の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎朝のバイタル測定・表情等、いつもと違いはないか、本人様にも体調を伺い、異常があれば主治医に相談しています。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的にカンファレンスを行い、本人様になったつもりで「すっぽりシート」を活用し、本人様・家族様の意向を最大限に反映させたいという、現状に即した介護計画を作成しています。	日々の関わりや、言葉、行動などを丁寧に把握されている。職員が本人になったつもりで、独自の様式「すっぽりシート」を活用し、本人の意向を把握している。本人の活動（正月に向けて、しめ縄作り）や役割を通して、日々の生活が楽しく、快適となるような計画を作成および実施をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子や気づき・体調の変化等を記録し、申し送り、朝礼・昼礼を通じて、情報を共有しています。その記録を基に、必要に応じてカンファレンスを行い、ケアの見直しにつなげています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人様・家族様の要望に沿えるよう、現場の意見や社内のケアマネージャーに相談しながら、ホーム長の指示のもと個別の対応をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近所の方や民生委員、地区の方等に見守りをご協力いただき、何かあった時は連絡くださるようお願いしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	診察にスタッフが立ち会うことにより、本人様とかかりつけ医との橋渡しをし、納得が得られる医療を受けるお手伝いをしています。	利用時に相談し、かかりつけ医を決めているが、往診体制（週2回）や緊急時の連絡体制のこともあり、大半の方がホームの協力医となっている。今までの治療経過が把握できるように、「往診ファイルなど」で記録され、申し送りなどで情報共有を図り、対応されている。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	連携医療機関をはじめ、ご本人様の主治医・看護師に相談しながら対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は普段のご様子を情報提供し、治療に活かしていただいています。また、病院・家族・かかりつけ医とも密に連絡をとっています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期については、かかりつけ医も交えて話し合いを繰り返すことによって、本人様・ご家族様の思いを確認し、ケアの方針を決めています。	看取りの経験から、希望があれば看取りはする方針である。利用時に「終末期における対応指針・重度化した場合及び緊急時に関わる確認書」により意向を確認されている。重度化やターミナルケアに向かう時期となれば、かかりつけ医や家族との話し合いをその都度重ねて対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時のマニュアルを作成し、それを基に対応しています。また、法人全体で、消防隊員による救急救命講習を年に1回実施しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、消防職員を招いて避難訓練を実施しています。指導いただいた内容は、スタッフ間で共有しています。	訓練時に民生委員の方が参加される場合もある。日頃から散歩や地元の行事などで、地域の皆様と顔を合わす環境もあり、地域住民から気にかけてくれる人が増えている。夜間想定訓練が出来ていない状況から、訓練実施の準備をされていた。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	定期的な社内研修において、接遇・言葉かけの教育に努めています。また、月に一度のミーティングにおいても、確認しあっています。	言葉遣いは日常のこともあり、特に気をつけて対応されている。定期的な社内研修を行い、接遇・言葉かけの教育を行っている。本人の自尊心を傷つけないように、相手の立場で考え、その人に合った言葉掛けとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人様の思いや希望を言っていただきやすい雰囲気作りと環境作り、声かけを実施し、本人様がどうしたいかを確認しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	スタッフの都合を優先するのではなく、本人様の思いや希望をお聞きし、理解したうえで行動するようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着替えの服を本人様に選んでいただいたり、理容師に希望する髪型を相談できるようにしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	じゃがいもや玉ねぎの皮むき・食器やお盆拭き等、お一人お一人に合わせて一緒に取り組んでいます。	3食とも手作りである。メニューは、同グループ（4事業所）一緒であるが、食材の状況により、メニューを変更する場合がある。職員も一緒に食べることを基本とされ、食事中も会話が弾んでいる。家族会の食事会（お好み焼き、焼肉など）の実施と適宜、外食で回転寿司に行くこともある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	かかりつけ医とも相談し、一人ひとりに合わせたメニューや盛り付けで食事を提供し、必要に応じて食事量・水分量を記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	ご自分で出来る方は見守りをし、足りないところは、スタッフでお手伝いをしています。必要に応じて訪問歯科を利用しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	安易に、おむつに頼らず、できるだけトイレでの排泄を心がけています。トイレでの介助法も、本人様の持つ力を、最大限に引き出す介助法を行っています。	トイレに座ることを基本としたケアに取り組んでいる。職員は定期的な研修（外部講師を招いての楽技介護塾）を習得することにより、介助方法も、本人の能力を最大限に活かしたケアに取り組まれている。便秘予防として、花嫁体操（介護予防体操）や適宜の水分摂取、散歩を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	牛乳やヨーグルト・寒天等をメニューに取り入れ、便秘に効果のある体操やマッサージ等を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	曜日は基本的に決めています、状況に応じて希望に沿った時間に入浴していただけに対応しています。	時間帯は午後（14：00～17：00）とし、最低週2回は入浴を行っている。夜間眠れない方への対応として、足浴を行う場合もある。本人に満足していただくことを心掛け、ゆっくりと入浴ができるように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	就寝・起床時間は、ご本人様の 体調や希望・昼寝も含めて自由 に選んでいただいています。お休 み中の室温・湿度にも気を配っ ています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	薬情報をファイルにとじ、いつ でも確認できるようにすると同 じく、薬の変更があった場合に は、朝礼等を通じてスタッフに 説明しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	調理や食器拭き、洗濯物たたみ やお花の水やり等をスタッフと 行ったり、お出かけやカラオケ 等、日々の暮らしの中にアクセ ントをつけるようにしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	ホームの周りを散歩したり、ド ライブに出かけたり、ご家族様 の来訪時には、スタッフと共に お出かけしたりしています。	外出することは、本人にとって 気分転換にも繋がるため、地 元の行事（地蔵盆、敬老会など） には参加されている。季節を感 じて頂く取り組みとして、雨天 以外はなるべく毎日のように散 歩をされ、地域の皆様と交流が 図られるように、機会づくりに 努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	スタッフと一緒に買い物に出かけ る場を設け、社会とのかかわり をもっといただくよう支援して います。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状を書いていただいたり、ご本人の要望に応じて、ご家族やご友人に電話をかけるお手伝いをさせていただいています。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関には季節に応じた花を飾り、ホールには写真やお客様の作品を展示しています。	毎日（2回）の清掃により、ホーム内は清潔に保たれている。適宜の換気や室温調整を行い、利用者の健康管理に努めている。壁面には、季節毎の飾り付けを行い、季節感の演出に工夫をされている。一人ひとりが心休まり、快適に生活されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングで、好きな席に座っていたり、ソファや和室、ウッドデッキ等で、思い思いに過ごしていただいています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人様の使い慣れたものを持ってきていただいています。一人ひとりの居室にそれぞれの個性が現れています。必要に応じて、スタッフと本人様とで好きなものを買に行っています。	ダンス・エアコン・カーテンは用意されている。各居室は、車いす使用の方でも、十分なスペースが確保されている。本人が居心地よく生活して頂くために、基本的には使い慣れた物品などの持ち込みのお願いをしている。作品（塗り絵、折り紙など）は、壁面に飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	それぞれの居室の入り口には、名前を書いたプレートをつけています。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム楓

作成日 平成28年2月24日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点, 課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	災害時の避難訓練にて、夜間想定 の訓練が実施出来ていない	夜間を想定した訓練を実施し、スタッフの人数が少ない状況での避難方法を習得する	布団や毛布を使用した避難の方法を次回の訓練時に学ぶ	2016年3月に実施予定
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。